

ミニテスト

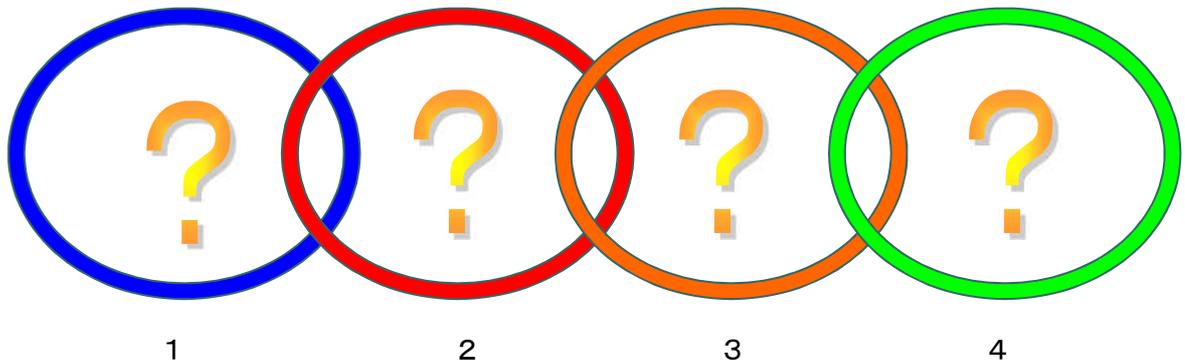
～一次救命処置の重要性について～

☞ 市民が行う救急蘇生法とは？（ ）内に記入してください。
救急蘇生法は、（ ）と（ ）に分けられる。
（ ）とは、（ ）、又はこれに近い状態になった傷病者を
（ ）に導くための方法。（ ）とは、（ ）や（ ）
をした傷病者を助けるために行う（ ）。

☞ 一時救命処置とファーストエイドについて（ ）内に記入してください。
一次救命処置とは、胸骨圧迫や人工呼吸による（ ）と
（ ）に加え、（ ）が含まれる。
ファーストエイドは、（ ）や熱中症への対応が含まれ、目的は、（ ）
や（ ）である。

☞ 一次救命処置の重要性について（ ）内に記入してください。
119番通報から救急車が現場に到着するまで、令和4年のさいたま市の平均は約
（ ）分、令和4年中の全国平均が約（ ）分である。
心肺停止に陥って最初にダメージを受ける臓器は（ ）である。
居合わせた人が心肺蘇生法を行った場合、行わなかった場合と比べ、8分後の救命
の可能性は約（ ）倍となる。

☞ 救命の連鎖について（ ）内に記入してください。



- 1 ()
- 2 () と ()
- 3 ()
- 4 () と ()

㊦ 救命の連鎖での心停止の予防について () 内に記入してください。

成人の心停止の主な原因には、() や () がある。これらは、生活習慣病とも言われ、がんとともに日本人の主な死因となる。救命の連鎖でいう「心停止の予防」は、() に早く気づき、() を要請することである。これにより、心停止に至る前に () を開始することができる。

子どもの心停止の主な原因は、ケガやおぼれ、窒息などの () が挙げられる。これらは周囲の大人が、() して () ことが大切である。

㊦ 救命の連鎖での早期認識と通報について () 内に記入してください。

突然倒れた人や反応のない人をみたら、ただちに () を疑う。

() の可能性を認識したら、() で人を集め () を行い、() や () が少しでも早く到着するように努める。

() をすると、電話を通じて () の指導を受けることができる。

㊦ 救命の連鎖での一次救命処置について () 内に記入してください。

一時救命処置とは、()、()、() の3つの処置のことをいう。

心肺蘇生は、止まった () と () を補助する。胸骨圧迫は ()、()、() 行うことが重要である。

AEDを用いた除細動は、心臓に () を行うこと。

気道異物除去は、気道異物を除去し () を解除するための処置である。

これらの処置は、AEDや感染防止などの簡単な器具以外に特別な器具を使わず、() も不要で誰でも出来る。

☒ 心肺蘇生について（ ）内に記入してください。

- 1 心肺蘇生は、（ ）と（ ）の組み合わせが原則。
- 2 胸骨圧迫は、（ ）を圧迫して人工的・間接的に心臓の動きを代用する。
- 3 胸骨圧迫によって（ ）や（ ）に血液を送り、AEDによる心拍再開の効果を高め、心拍再開後の脳の（ ）を低減させる。
- 4 人工呼吸は、訓練を受け（ ）を身に付けており、行う（ ）がある場合のみ実施する。
- 5 （ ）や（ ）による心停止、（ ）の心停止などでは、胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせた心肺蘇生が強く望まれる。

☒ 心肺蘇生法の年齢区分について（ ）内に記入してください。

対象	成人（16歳以上）	小児（1～15歳）	乳児（1歳以下）
比率	胸骨圧迫（ ）回：人工呼吸（ ）回 （胸骨圧迫と人工呼吸を組合せて実施する場合）		
胸骨圧迫の深さ	胸が約（ ）cm沈むまで圧迫。	（ ）の約（ ）まで圧迫。	
圧迫法	両手	両手もしくは片手	（ ）
リズム	（ ）回／分		
方法	口対口		口対（ ）
時間・量	約（ ）秒かけて 胸の上がりが見える程度		

☒ AEDについて（ ）内に記入してください。

- 1 AEDは、高性能の（ ）を内蔵した医療機器である。
- 2 心電図を（ ）で読み取り、（ ）が必要な方のみ電気ショックが行える。
- 3 従来のAEDもオートショックAEDも（ ）に従って行動する。
- 4 傷病者が未就学児の場合、AEDを（ ）に切り替える。

☒ AEDの重要性について（ ）内に記入してください。

- 1 急な心停止のほとんどは（ ）であることが多い。
- 2 AEDの使用目的は、（ ）に対して心臓に（ ）を与え、（ ）を取り除くこと。
- 3 心臓振盪とは、（ ）へ加わった衝撃が心臓に伝わり、その衝撃で（ ）してしまうことである。

☒ 気道異物除去について（ ）内に記入してください。

- 1 窒息とは、（ ）が完全に詰まって息ができなくなった状態である。
- 2 窒息による死亡を減らすために大切なことは（ ）である。
- 3 傷病者の反応がある間は（ ）よりも（ ）を優先する。
- 4 まずは、（ ）を試みて、効果がなければ（ ）を実施する。
- 5 腹部突き上げ法は、（ ）、（ ）、（ ）には行わず、腹部突き上げ法により異物が取れたとしても必ず（ ）すること。
- 6 乳児に対して気道異物除去を実施する際は、（ ）に注意する。
- 7 異物が取れるか反応がなくなるまで続け、反応がなくなった場合は（ ）を開始する。

☒ 救命の連鎖での二次救命処置及び心拍再開後の集中治療について（ ）内に記入してください。

（ ）や（ ）が一次救命処置と並行して、様々な医療器具を使い、傷病者の心臓が再び拍動することを目指すこと。

心拍再開後の集中治療とは、専門科による集中治療を行うことにより、（ ）を目指すこと。